蝦夷穴12号横穴出土品（古墳時代終末期中葉～後葉）

郡山市田村町小川字下田地内　[全長874　刃長755　元幅31　先幅23　棟厚8（㎜）]

金銅製ツカ頭の「方頭大刀」です。刃部中央に位置する茎基部には、銅製のハバキが取り付けられ、喰出ツバでツカ木と共に固定されています。往時は要所に金色の装具が付けられた姿だったようです。

笊内古墳26号横穴出土品（古墳時代終末期後葉）

白河市東上野出島字笊内地内　[全長850　刃長656　最大幅56（㎜）]

茎とツカ縁金具・喰出ツバの位置関係から両マチと考えられる大刀です。鉄製のツバ・ツカ縁金具・鞘口金具・責金具・鞘尻金具が遺存し、二足金具により水平方向に着装されたとみられます。ハバキはなく、鉄板を丸めて作られたツカ縁金具が鞘口にはまることで刀身の脱落を防いでいました。鞘口金具を覆う平織り布が漆で固められ、鞘尻金具内にも漆皮膜が残っていることから、鞘は黒漆塗りの姿をしていたと考えられます。

牛庭出土品（奈良時代中期～後期）

郡山市安積町牛庭字孫兵衛堀込地内　[全長783　刃長643　元幅27　棟厚7　茎長140（㎜）]

いわゆる「唐様」の大刀で、「正倉院様式」とも称されます。緻密な作りの大型のツバ、二本ひと組の責金具を介して付けられた大型足金具、刃部の元にある薄作りのハバキなどの豪華な外装が目立ちます。外装以上に目立つ特徴として、刃部に稜線が通る刀身が挙げられます。断面形をみると稜線部分で刃部の角度が変わっており、古墳時代の大刀にみられる「平造り」とは違うことが分かります。「日本刀」にみられる「鎬」の嚆矢と言えるでしょう。

参考引用文献

穴沢咏光・馬目順一1977「頭椎大刀試論」『福島考古』第18号福島県考古学会
穴沢咏光・馬目順一1978「東北地方出土の環頭大刀の諸問題」『福島考古』第19号福島県考古学会
穴沢咏光・馬目順一1979「郡山市牛庭出土の銀作大刀」『福島考古』第20号福島県考古学会
池淵俊一2003「刀剣・矛・戈・素環頭刀」『考古資料大観　7弥生・古墳時代　鉄金鋼製品」小学館
菊池芳朗2010「第I部　刀剣類からみた古墳時代史の展開」ほか『古墳時代史の展開と東北社会」大阪大学出版会
白石太一郎2010「鉄とヤマト王権」『鉄とヤマト王権」大阪府立近つ飛鳥博物館
豊島直博2007「古墳時代前期の刀装具」『考古学研究」54-1考古学研究会
福島雅儀2005「古代金属装飾刀の年代」『考古学雑誌」第89巻第2号日本考古學會
福島雅儀2008「古代装飾付大刀の政治的役割」『考古学雑誌」第92巻第2号日本考古學會
松尾充晶2003「装飾付大刀」『考古資料大観　7弥生・古墳時代　鉄金鋼製品」小学館
いわき市教育委員会2010『神谷作106号墳　白穴横穴群」いわき市埋蔵文化財調査報告第141冊
郡山市教育委員会1979『阿弥陀堂」『古墳群発掘調査概報」
郡山市教育委員会2002『蝦夷穴横穴墓群―12・13号横穴調査報告―」
郡山市教育委員会2004『蝦夷穴横穴墓群―12・13号横穴出土遺物報告―」
須賀川市教育委員会2003『稲古館古墳　稲古館遺跡」須賀川市文化財調査報告書第40集
福島県教育委員会1996「笊内古墳群」ほか『母畑地区遺跡発掘調査報告39」　福島県文化財報告書第328集
福島県教育委員会2000「弘法山古墳群」『福島空港・あぶくま南道路遺跡発掘調査報告8」　福島県文化財報告書第369集
矢吹町教育委員会1983「七軒横穴群」矢吹町文化財調査報告第6集

■編集・発行／財団法人 郡山市文化・学び振興公社 大安場史跡公園
〒963-1161 郡山市田村町大善寺字大安場160番地
TEL：024-965-1088　FAX：024-965-1090
http://www.bunka-manabi.or.jp/oyasuba/
■発　行　日／平成23年2月11日

紙へリサイクル可
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。
PRINTED WITH SOY INK
環境にやさしい大豆油インキを使用しています。
FSC ミックス品
FSC認証林及び管理された森林からの製品グループです。
www.fsc.org Cert no. SGS-COC-002911
© 1996 Forest Stewardship Council

大安場一号墳出土剣（復元）

大安場一号墳出土剣

大安場史跡公園

大安場史跡公園　平成二十二年度 企画展

古墳時代の鉄製品

―副葬された刀と剣―

【期間】　平成23年2月11日（金・祝）～3月13日（日）
※休館日　2月14日・21日・28日・3月7日

【会場】　大安場史跡公園
ガイダンス施設エントランスホール

【会場】　午前9時～午後5時（入館は4時30分まで）

古墳時代の鉄製品は当時の技術を物語る貴重な資料です。なかでも刀剣類は、その大きさや外装などから政治権力が反映されたと考えられるものです。
時代ごとに変わる様子を見てみましょう。

【主催】　郡山市　郡山市教育委員会　財団法人 郡山市文化・学び振興公社

大安場1号墳出土品（古墳時代前期）

郡山市田村町大善寺字大安場地内　[全長794　鞘長659（㎜）]

非常に数が少ない前期の大刀。この時期の大刀は、東北地方では会津大塚山古墳（会津若松市）・愛谷古墳（いわき市）・大安場古墳の出土資料に限られる貴重なものです。長大な刃に比べて茎が短いことから、片手持ちで儀仗用だったと考えられます。

ツカと鞘には表面に布が巻かれた木製装具が付けられ、ツカは凹状の木製部品に茎を挿入した構造です。ツカを注視すると、茎が峯側（向こう側）に片寄っている様子がご覧いただけます。

X線撮影により、ツカと刃の境目には刃部のみに小さなマチがあることが分かり、同時期の典型的な大刀であるといえます。

正直27号墳出土品（古墳時代中期）

郡山市田村町正直地内　[全長678　刃長551　元幅27　先幅17（㎜）]

剣の鹿角製装具は地方で取り付けられたものとみられ、抜き身の大刀にも同様のものが備えられていたと考えられます。刀身は切先がやや丸みを帯びて非常に細身の形状です。大刀がまだ少ない時期の地方で出土した貴重な資料です。

白穴横穴東1号出土品（古墳時代後期末葉）

いわき市平神谷作字白穴地内　[全長682（㎜）]

いわゆる「金ぴか刀の時期」の金銅装大刀です。展示資料はほとんど鞘だけに見えますが、大きな円形浮紋が一列に並ぶデザインから、大型の双龍環頭がツカ頭を飾る大刀だったようです。着装のための足金具がなく、鞘尻金具にスリット入り三条帯があることから、双龍環頭大刀の中でも古い時期に属します。

弘法山8号横穴出土品（古墳時代終末期前半）

矢吹町奉行塚地内　[全長910　刃長760　元幅33　先幅28（㎜）]

刃部側のみにマチをもつ金属装大刀です。刃部から茎にかけて弧を描くマチ形状のため、峯側に偏った穴のツバが取り付けられています。刀身は切先が丸みを帯びる細身の平造りです。茎に目釘穴が２箇所あり、目釘が残っている様子が分かります。

弘法山6号横穴出土品（古墳時代終末期前半）

矢吹町奉行塚地内　[全長728　刃長623　元幅33　先幅28（㎜）]

僅かな形状の違いがあるものの、峯側と刃側の両方にマチをもつ大刀です。ハバキが短いため、ツバが刃部寄りに取り付けられています。刀身は切先が丸みを帯びる細身の平造りです。

阿弥陀壇古墳群23号土坑出土品（古墳時代終末期初頭～前半）

郡山市大槻町柏山地内　[全長643　鞘長505（㎜）]

ツカ頭が金属で覆われていない円頭大刀です。大陸にルーツを持つ喰出ツバがあることからこの時期としては古式で、二足金具により水平方向に着装していたことが分かります。

渕の上1号墳出土品（古墳時代終末期中葉）

郡山市安積町笹川二丁目地内　[刀身長845　ツカ頭最大径75（㎜）]

茎を２枚の木製装具で挟んだ上で銀糸巻にしたツカや各種金属製装具など、各部が精緻な造りになっています。また、ツカ頭・ツバ・鞘口金具・責金具・鞘尻金具には鍍金が施されています。

東北地方出土の後期以降の装飾付大刀は55点、甲冑が一緒に出土した例は10点（９箇所）にすぎません（菊池2010）。冑も出土した渕の上１号墳の被葬者は、中央から認められた相応の有力者であったことみられます。

笊内古墳6号横穴出土品（古墳時代終末期中葉）

白河市東上野出島字笊内地内　[全長777　刃長662（㎜）]

茎の位置から両マチと考えられる大刀です。特徴として、植物質が遺存するツカ・金銅製の鞘口金具・銅地銀張の足金具・やや直線的な切先の形状などが挙げられます。